

植物多様性センターの「ど根性スミレ？」

学習園そばの園路のわずかな隙間に、今年も「ど根性スミレ」が何株も咲いています。じつはスミレがこんなところで咲くのは偶然ではありません。スミレの仲間の種子には、アリが好むエライオソーム(種枕)という器官がついています。アリは種子を巣穴に運んでから、それだけを食べて種子は巣穴の外に捨ててしまいます。スミレは種子をアリに運んでもらうアリ散布というシステムを巧みに利用して、都会の生活に適応しているのです。あなたのご近所のスミレの近くにも、アリの巣はありませんか？



陽だまりで咲き始めたコスミレ：
まだ背が低く葉も展葉したて



コスミレが咲きだしたのは、コン
クリートとアスファルトの隙間



コンクリートの割れ目のアリの
巣：穴から砂を運び出している



コスミレの根：ど根性を支える乾
燥に耐えられる太くて長い根